

受講番号 19003 学校名 室戸高等学校定時制 氏名 安岡 留美

研究の背景

研究対象(学年、クラス等) 1年生 生徒数 7名
科目名 英語Ⅰ 単位数(授業時数) 2時間 使用教科書名 Viva! EnglishⅠ NEW EDITION

クラスの様子・特徴

男子生徒9名のクラスである。年齢は15歳～20歳の幅がある。全体的に明るい雰囲気でもとまりのあるクラスである。中学校での既習事項はほとんど身につけておらず英語に苦手意識をもつ生徒がほとんどである。(9月より対象生徒が7名になる。)

問題の確定

英語の基礎基本が身につけていないためか英語への苦手意識が高いので苦手意識を軽減させる。基礎基本を身に付けさせる。

予備調査

A 授業の観察

全体的に明るく仲の良いクラスであるが、集中力が切れると話を脱線させる方向に力を注ぎ始める。こちらが投げかける質問にも、面白い答えを言おうとして躍起になり、英語に関係のない答えまで言い始める。しばしば予定通りに授業が進まない。

B 生徒による授業評価

英語は好きだという生徒が多いものの、大半の生徒が単語を覚えることが難しいと感じている。聞き取りや発音、読むことが難しいと答えたものもいた。望む授業は、「楽しく覚えやすい授業」と解答しているので、楽しさを盛り込んだ授業展開に気をつけたい。

C 学力データ

教科書に出てくる中学校既習の単語の中でも平易なものを選んで、出題する単語を事前に教えた上で、課の最後に単語テストを行った。正答率は平均67%であったが、定期テストの際には57%に落ちた。

リサーチ・クエスト

生徒が苦手意識を抱いている新出単語習得について、どのような活動を用いればいかに能動的に学習し、また定着し、単語を用いて表現しようという態度を育てることができるのか。

仮説・実践・検証

仮説1

⇒ 授業時間内で単語学習の時間をゲーム等を用いて多く取れば、単語の定着が図れるのではないかと。

実践1

⇒ 授業の導入部分で、新出単語の習得のために比較的平易なもの、それに中学校既習単語を混ぜて1課に20語ほどを抽出し、書く練習と単語聞き取りの練習のために単語ビンゴを行った。次にスプリングと意味の確認・聞き取りの練習としてカルタを実施した。そしてスプリングの確認と発音練習のためにフラッシュカードを用いた。また毎時授業の最初にはフラッシュカードを用いて単語の復習をした。

検証1

⇒ 授業時間1時間ですべての活動を行う予定であったが、実際には2時間かかってしまった。そのため教科書の内容や文法事項の学習も合わせると1課を終わらせるのに多く時間を費やしてしまった。ゲーム感覚で活動したことで、生徒は楽しんでくれたようだが、単語が定着したかといえば、語を見て意味を予測できるようになったが、スプリングはまるで定着しておらず疑問が残る。

仮説2

⇒ 熟語習得のために、授業で使うワークシートを工夫することで、単語のみならず熟語についても意味を把握できるようになるのではないかと。

実践2

⇒ 単語ビンゴの中に熟語も取り入れて、課の最初で学習するとともに、ワークシートの中に熟語の聞き取りの活動を盛り込み、本文をひとつり理解したあとで、聞き取って書く活動を取り入れた。聞き取れた熟語は本文中から探してもよく、その上で本文の意味と照らし合わせながら、その熟語の意味を予想させるようにして、あまりにも難しい活動にならないように配慮した。

検証2

⇒ この活動を通じて、熟語を聞き取るとその熟語を探すために本文に目を通すようになってきたように思われる。発音は不正確なもの一生懸命本文を声に出して読んで探す生徒もいた。本文訳は先に渡してあるので、要領の良い生徒はその意味を本文訳から探して書き写すものもいた。ここでもスプリングの定着までは至らなかったが、生徒が本文に目を通す機会が増えたことは大きな一歩である。

仮説3

⇒ 授業で使うワークシートを工夫することで、学習した単語や熟語、文法事項を用いて、能動的に英語で描写したり表現したりする力をつけることができるのではないかと。

実践3

⇒ ワークシートの中に「かっこいいフレーズを覚えよう」というコーナーを作り、本文中に出てきた口に出して言ってみたくなるようなフレーズをひとつ選んで、まず聞き取らせ本文から探し意味を確認させる。見つけたらそのフレーズに工夫を加えて別の文章を作らせた。別の文章はこちらで用意しておく。また習った文法事項を使って表現の練習をした。ワークシートには写真を貼り付けたりして、生徒が取り組みやすいように工夫した。

検証3

⇒ 生徒たちはまじめに取り組んでくれたが、十分な定着につながらず、あとあとに残りづらい活動だったように思える。定期テストの最後にも表現問題として出題したが、授業でも一度学び、それに伴うフレーズや文法は他の設問では答えることができているにもかかわらず、表現できない生徒が大半であった。このことは、単語が定着できていないために表現するための単語を自信を持って書くことができなかったのではないかと推察する。

研究の成果

生徒との人間関係を割と近くして授業を行うことができた。授業を盛り上げようと、時には脱線しつつも一生懸命に取り組んでくれた生徒たちに感謝したい。1学期末のアンケートでは、「授業が分かりやすいか」の問いにほぼ全員がどちらともいえないと答えたのに対し、2学期末のアンケートでは、「分かる単語が増えたと思う」「4月から比べると英語がわかるようになったと思う」と答えた生徒が、否定的な解答をしたものの数よりも上回った。簡単な単語に的を絞り、何度も繰り返し練習させたことで多少は生徒の語彙獲得に役に立てたと思う。

今後の授業改善の課題

今回は単語をいかに定着させることができるか、を重点において授業を行ってきたが、あれもしたいこれもしたい、あれをしなればこれもしなれば、と欲を出すうちに本来の目的からそれたり、目的自体がブレることもあり、今までの授業もそうだったかもしれないと反省した。生徒の状況をみながら、生徒の力となるように自分の授業の進め方をもう少し系統立てて見つめなおす必要がある。

リサーチについての問合せ先:

職場電話

0887-22-1155

電子メール